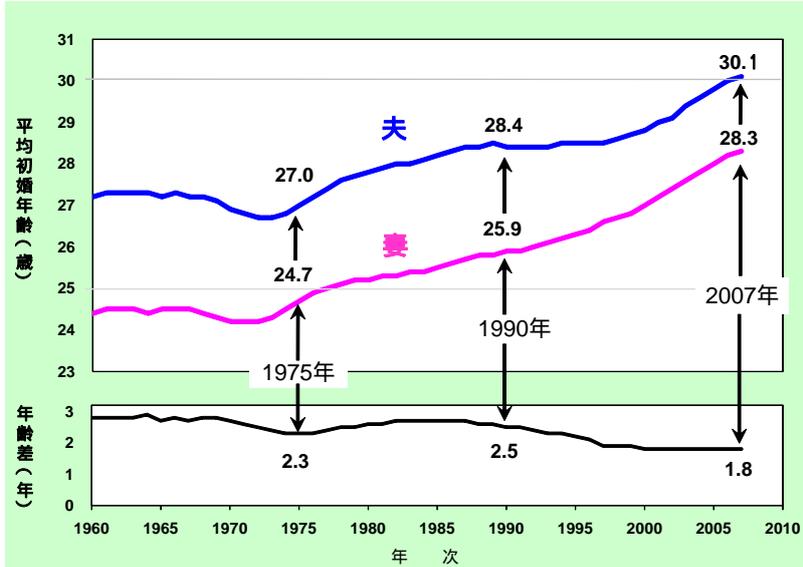


結婚の動向

図表1 晩婚化の進展 - 平均初婚年齢、夫妻年齢差の推移



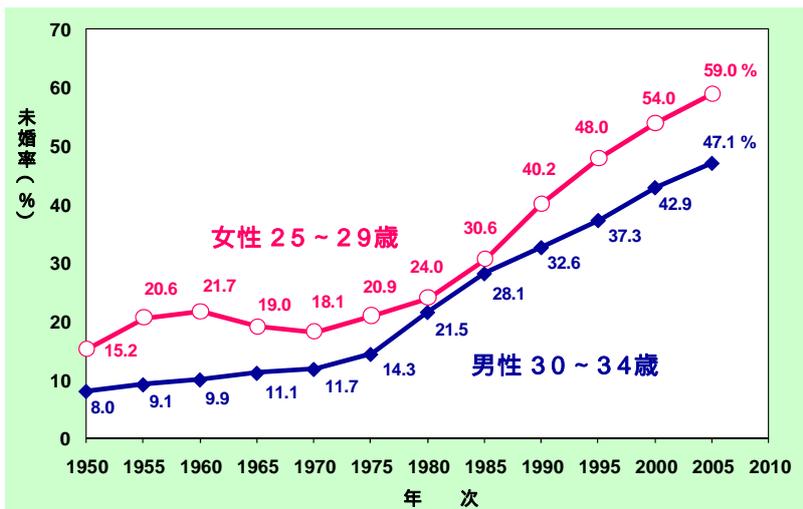
平均初婚年齢は、男女とも70年代半ば以降、上昇を続けている。

男性では90年代に一時停滞が見られ、結婚する男女の年齢差が縮小した。

90年代末以降は再び上昇を開始し、男女とも並行して晩婚化が続いている。

(資料：人口動態統計)

図表2 未婚化の進展 - 適齢期未婚率の推移



晩婚化にともなって20歳代から30歳代にかけての未婚化が著しく進んでいる。

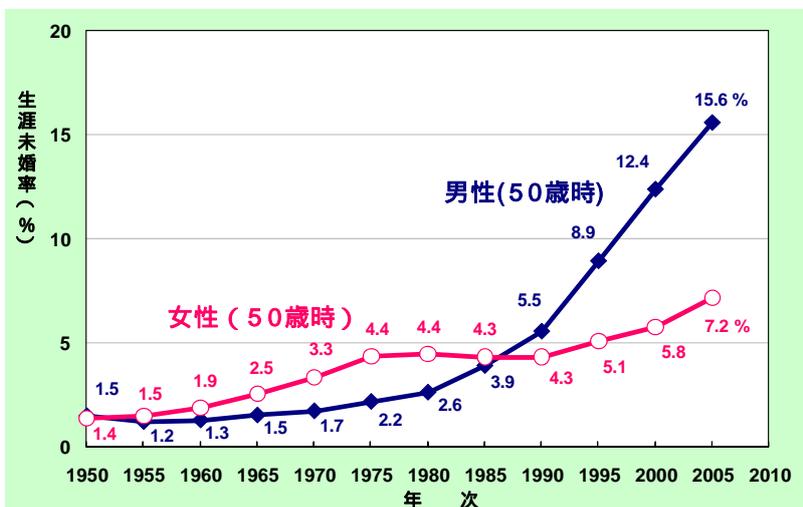
女性20代後半では1975~05年の間に未婚率は5人中1人から3人となった。

男性30代前半でも同時期に12%から43%へ増加した。

これらの年齢層では、その分だけ結婚している人が減っている。

(資料：国勢調査)

図表3 非婚化の進展 - 生涯未婚率(50歳時未婚率)の推移



生涯未婚率(50歳時点で一度も結婚をしたことのない人の割合)は、女性ではまだそれほど顕著には増えていないが、男性ではすでに15%を超えて急速に増加している。

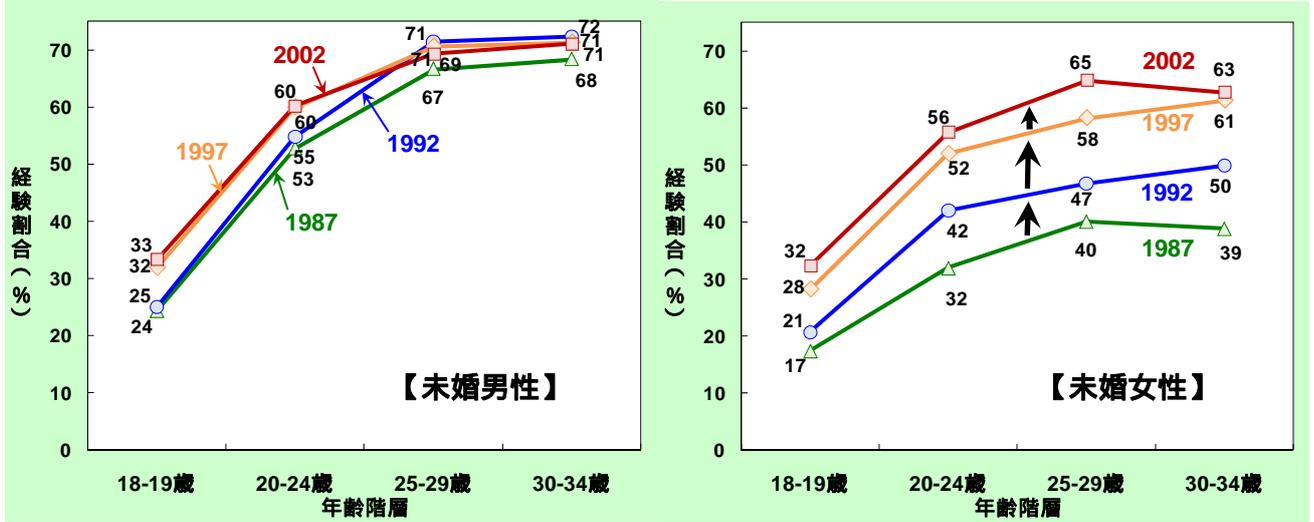
今後、晩婚化・未婚化の時代を過ぎた世代が次々に50歳に達して行くので、男女とも急速な非婚化(生涯結婚しない人の増加)が見込まれている。

(資料：国勢調査)

結婚の要因と背景

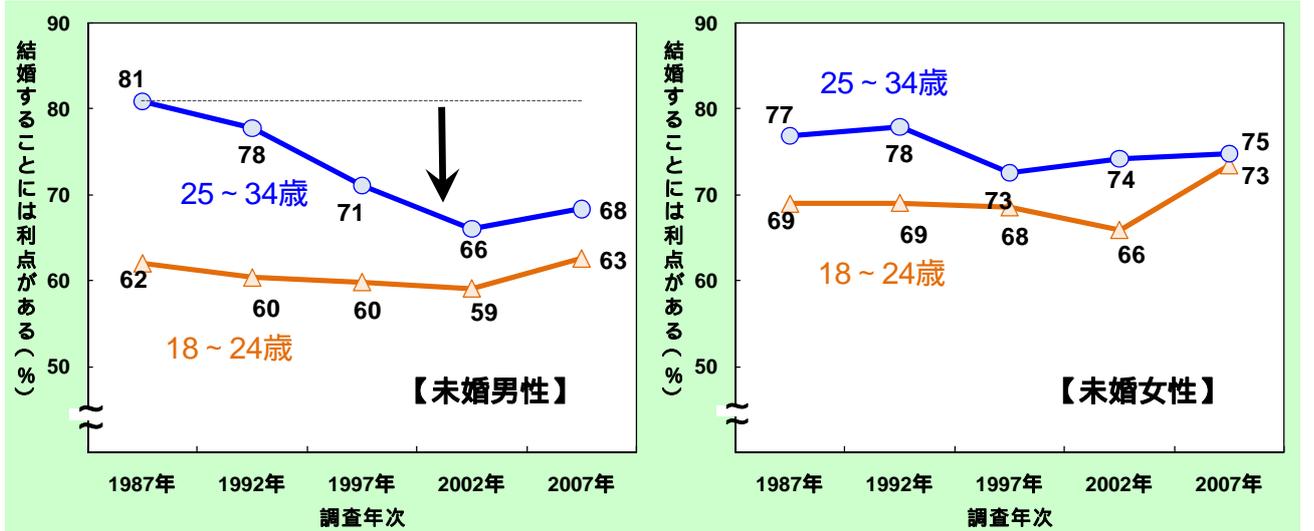
性の結婚からの遊離

図表4 未婚者の性経験率

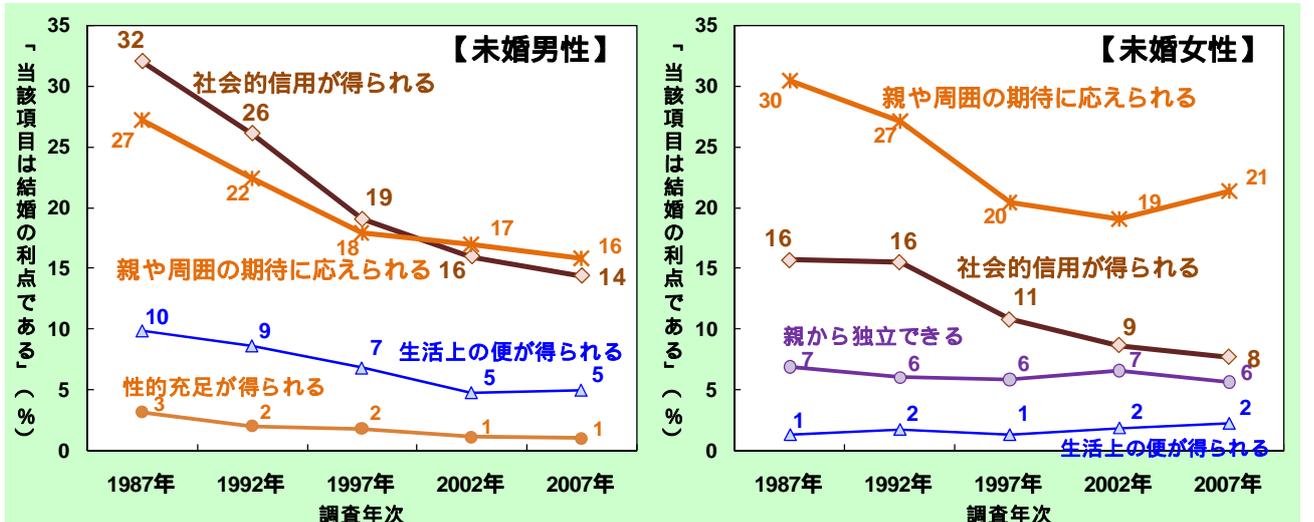


結婚の実利的メリットの低下

図表5 「結婚することには利点がある」と考える割合（参考図2に就業状態別）

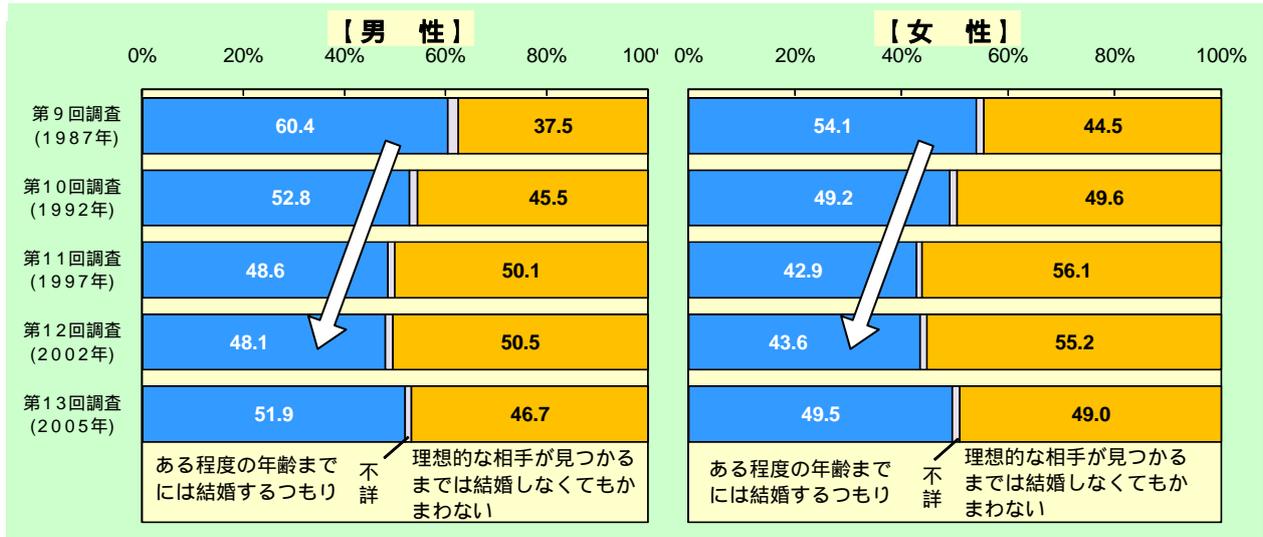


図表6 「結婚の利点」項目別推移（減少傾向のもの）



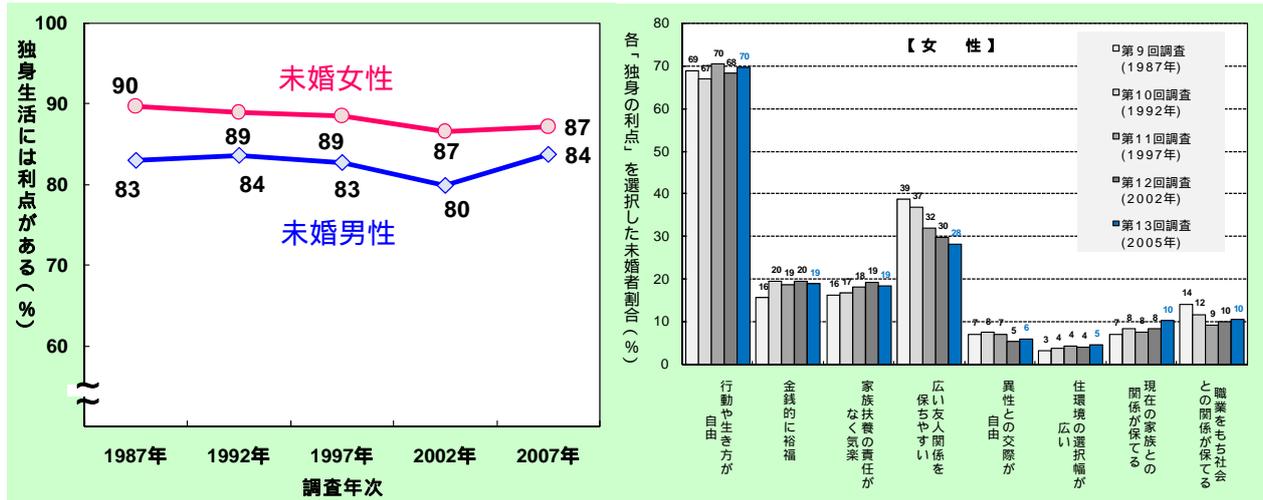
適齢意識の希薄化

図表7 年齢重視 対 理想重視



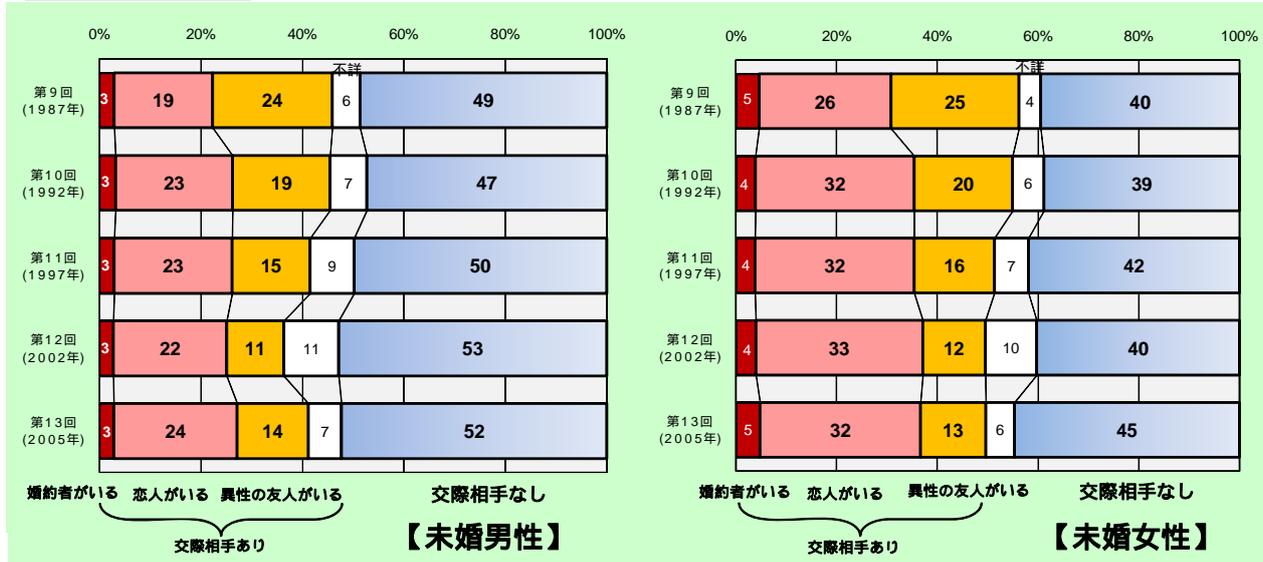
結婚の負担感は堅固

図表8 「現在の独身生活には利点がある」と考える割合、ならびに具体的な利点

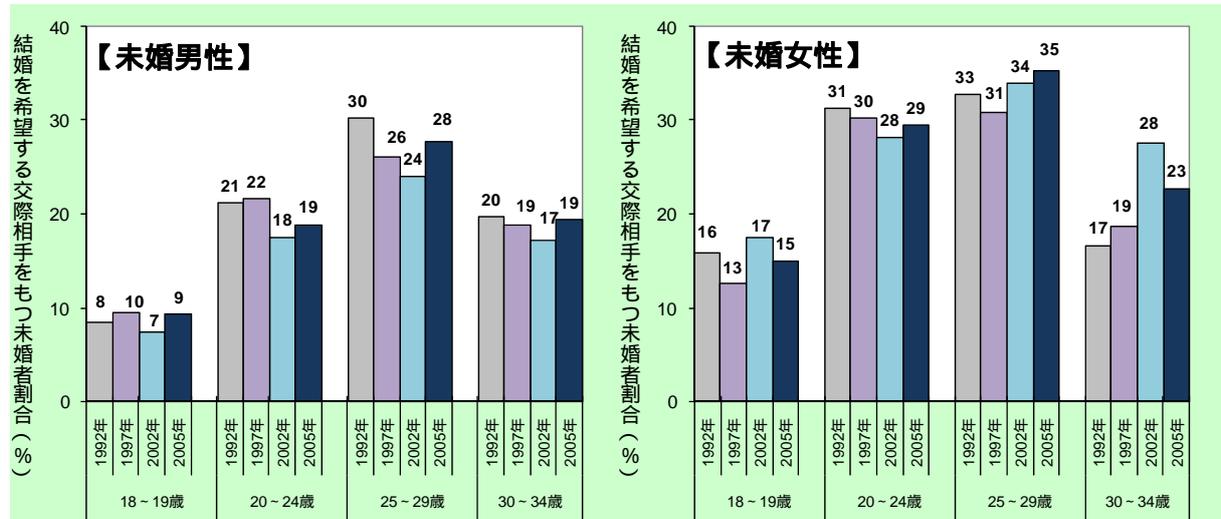


異性交際は低調

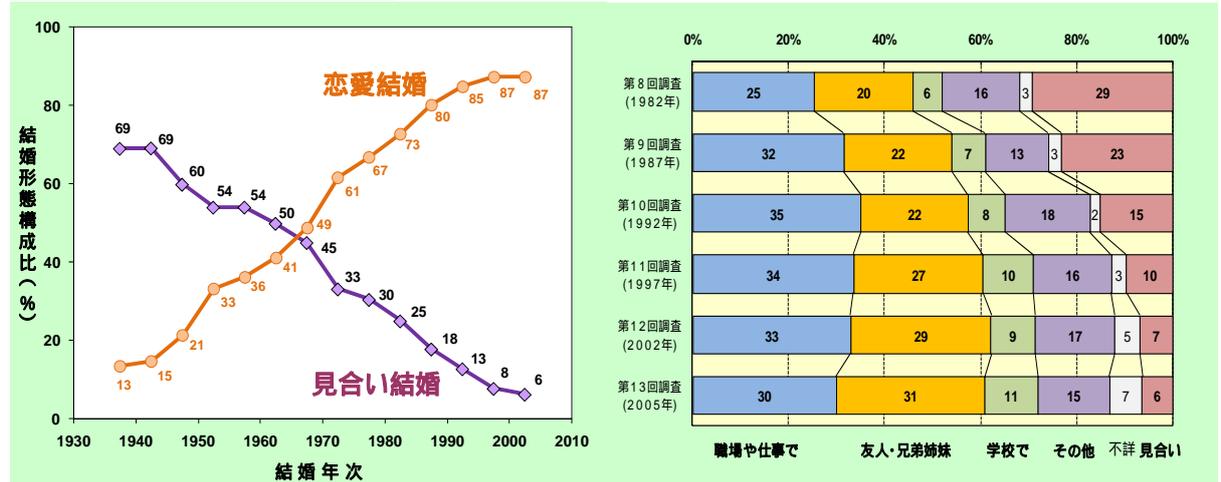
図表9 交際相手の有無 (18~34歳未婚者)



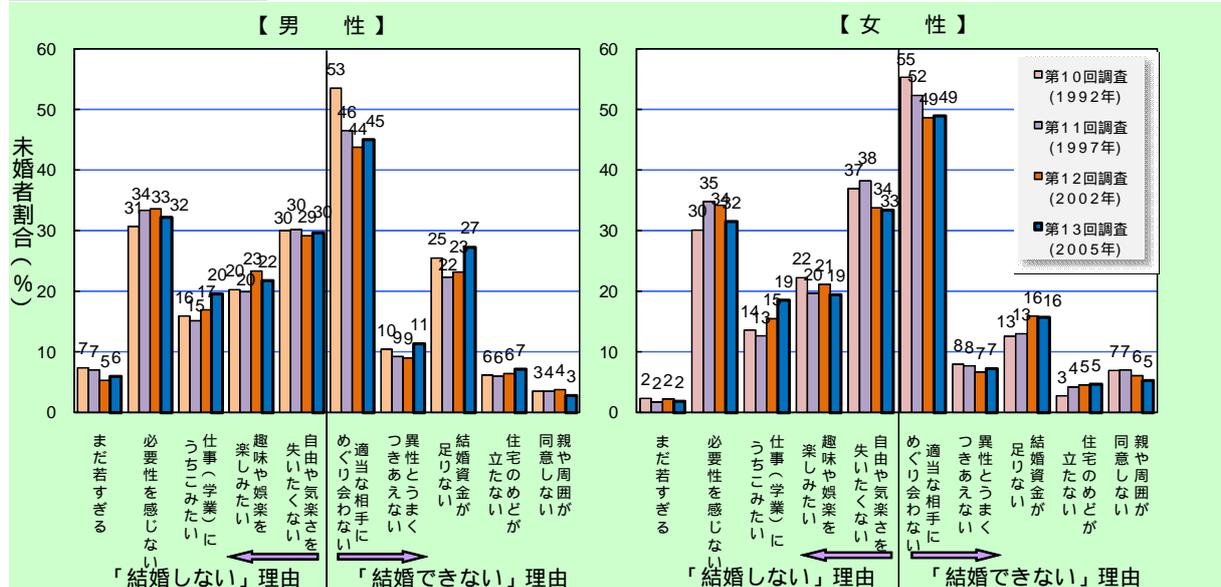
30代以降で結婚相手候補が少ない 図表10 結婚を希望する交際相手を持つ割合



出会いの場は限られている 図表11 初婚どうし夫婦の出会ったきっかけ



なぜ結婚しない? 図表12 未婚者(25-34歳)が独身に止まっている理由



比較的安定した生涯の結婚意思

図表 13 未婚者の生涯の結婚意思

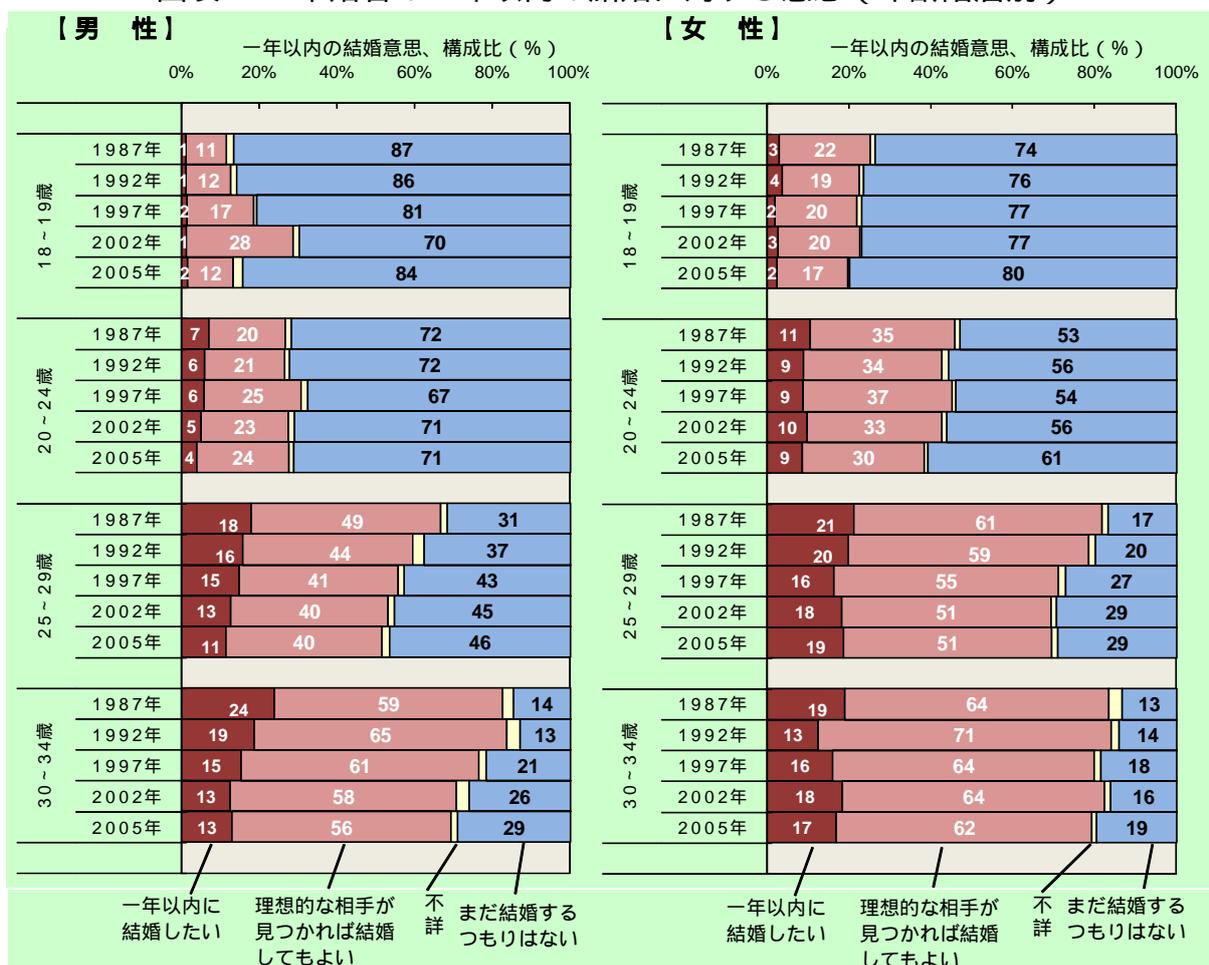
【 男 性 】						
生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	95.9%	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0
一生結婚するつもりはない	2.3	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1
不詳	1.8	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,732)	100.0 (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 (3,897)	100.0 (3,139)

【 女 性 】						
生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	94.2%	92.9	90.2	89.1	88.3	90.0
一生結婚するつもりはない	4.1	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6
不詳	1.7	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,110)	100.0 (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (3,494)	100.0 (3,064)

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」
1.いずれ結婚するつもり、2.一生結婚するつもりはない

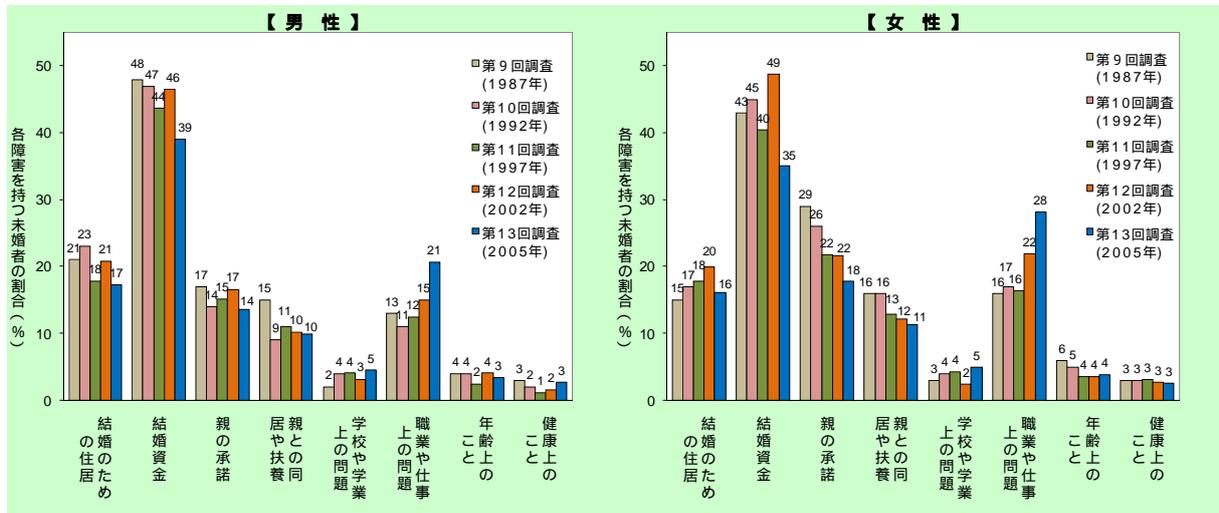
当面の結婚に対する意欲は低下傾向

図表 14 未婚者の1年以内の結婚に対する意思(年齢階層別)



仕事が結婚の障害、増加傾向

図表 15 結婚の障害（1年以内の結婚意欲と交際相手をもつ未婚者）



(参考1) 「晩婚化・未婚化・非婚化」と少子化の関係

少子化の背景には一貫して結婚のしかたの変化がある。中でも晩婚化は、1970年代半ばの少子化過程の開始から出生率低下の主な原因となっている。晩婚化は若い年齢層から順に結婚している人の割合を減らし(未婚化)、その年齢層での出産を減らす。また近年では晩婚化が生涯結婚しない人の増加(非婚化)につながっていると見られるので、若い年齢層で失われた結婚・出産の一部は、取り戻されないままとなることが見込まれる。

少子化の 3 要因

- (1) 年齢構造の変化 …… 親となる年齢層の人口減少
- (2) 結婚の変容 …… 出産の主力となる結婚した人々の減少
- (3) 夫婦出生行動の変化 …… 結婚した人々の持つ子ども数の減少

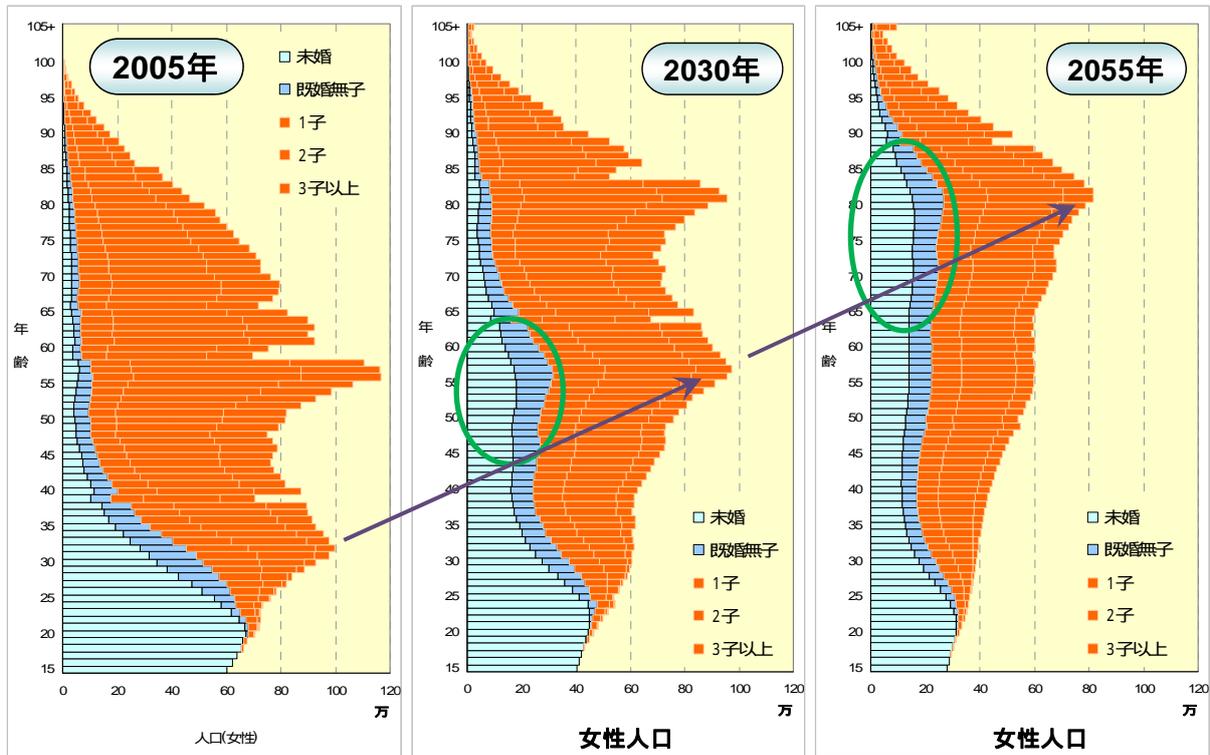
$$\begin{aligned} \text{出生数} &= \text{年齢別人口} \times \text{年齢別出生率} \\ (\text{年齢別}) \text{出生率} &= (\text{年齢別}) \text{有配偶率} \times (\text{年齢別}) \text{有配偶出生率} \\ &\quad \text{有配偶率} : \text{結婚している人の割合} \\ &\quad \text{有配偶出生率} : \text{結婚している人の出生率} \end{aligned}$$

厳密には・・・出生率 = 有配偶率 × 有配偶出生率 + (1 - 有配偶率) × 無配偶出生率

結婚動向の帰結

結婚の減少は、少子化(出生率低下)を導くことで、わが国の人口減少・高齢化を加速する以外にも、非婚化が進めば、生涯結婚をせず、子どもや家族を持たない人々を増やすと考えられる。

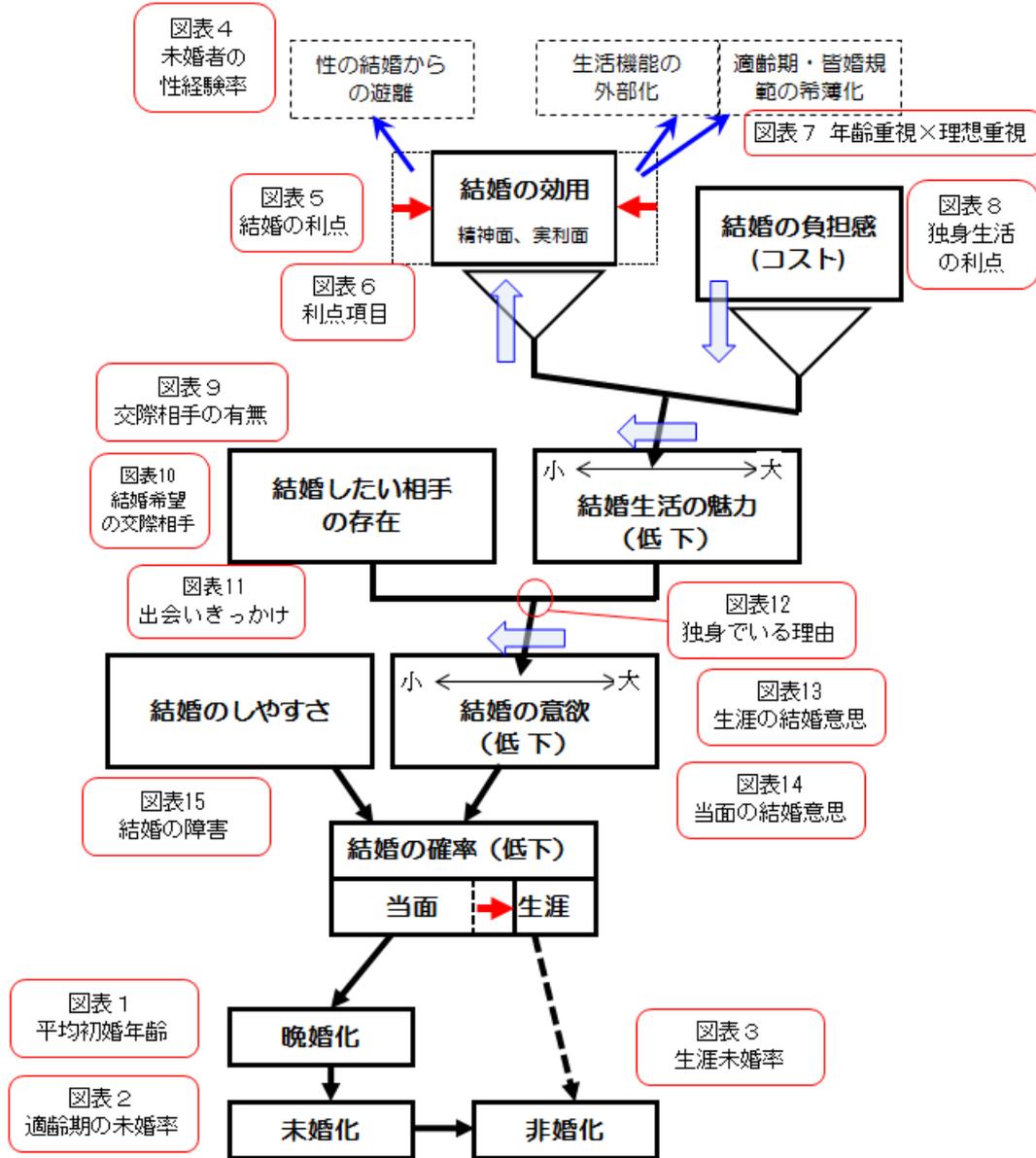
参考図1 女性人口中の未婚および子どもを持たない人の割合(「日本の将来推計人口」より算出)



(参考2) 結婚の変化における本資料、各図表の位置づけ

結婚の減少は、多くの要因によって引き起こされてきたが、社会の変化にともなって結婚や家族の機能や性質が変わってきたことが中心にあるとされる。ここでは結婚のコストと効用(便益)のバランスが変化し、結婚生活の魅力が低下したこと、また異性交際などを含めた状況が若い世代の結婚意欲や意識にどう影響しているかといった点に焦点をあてて資料を作成した。下図はそれぞれの図表(赤枠)が結婚変化のどの部分と関わっているかを示している(図表は主として「出生動向基本調査・独身者調査」の公表結果から作成したものである)。

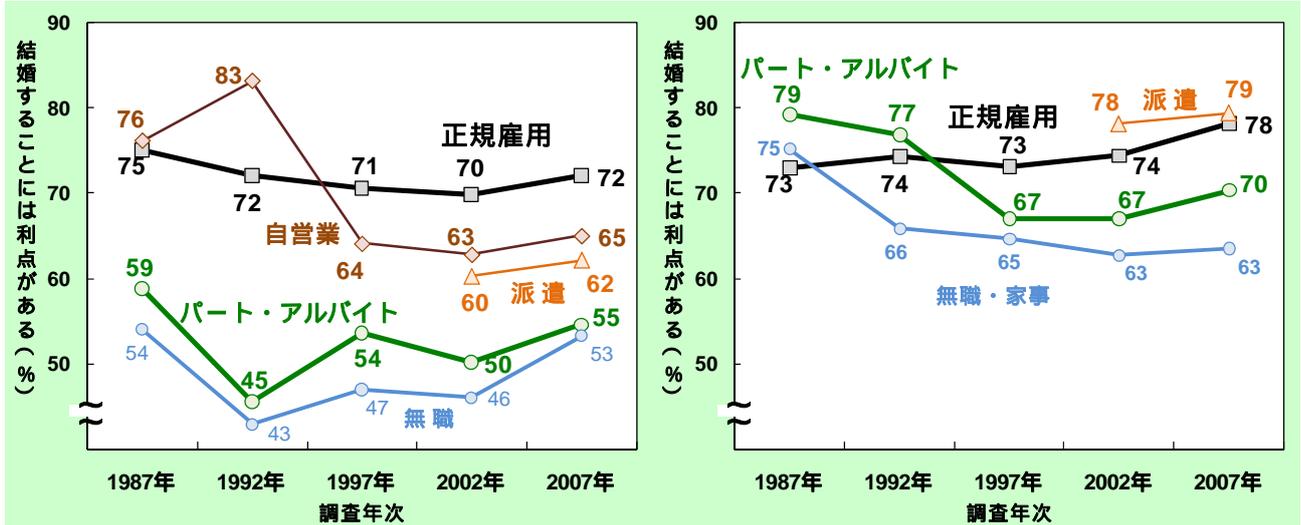
参考図2 結婚の変化における各図表の位置づけ



(参考3) 結婚の利点、結婚意欲に関する補足資料

結婚のメリット感は正規雇用の者で高く、男性でその傾向が強い

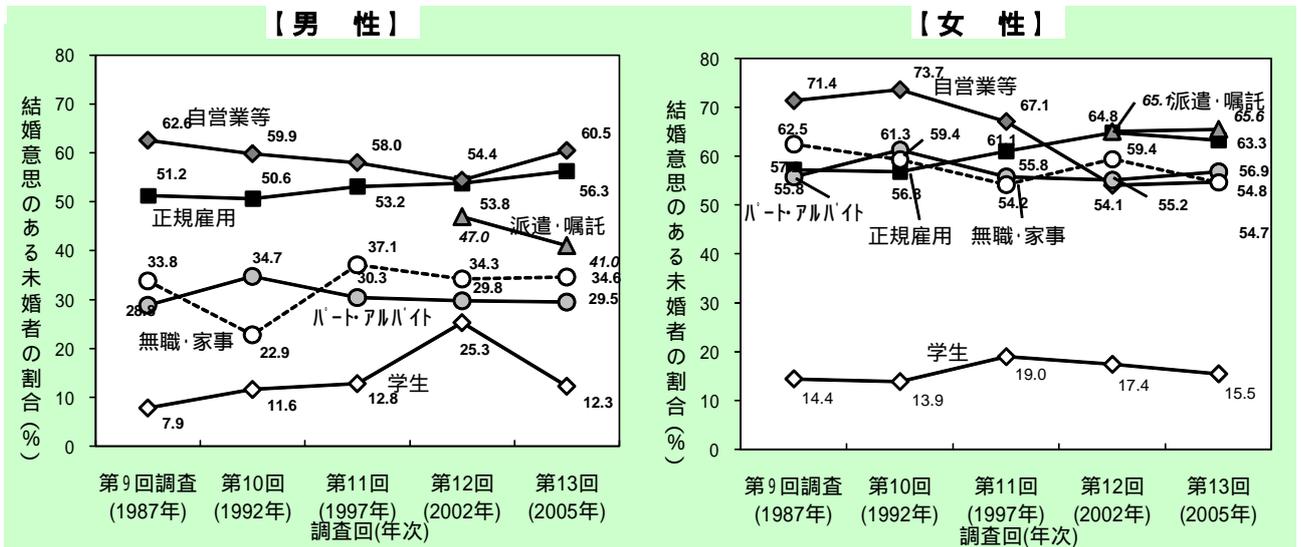
参考図3 就業状態別にみた「結婚することには利点がある」と考える割合
未婚男性(18-34歳) 未婚女性(18-34歳)



各グループの未婚者中で「今、結婚することには利点がある」と回答した者の割合。

結婚のメリット感はそのまま結婚意欲に影響している

参考図4 就業状態別にみた結婚意思のある未婚者の割合
未婚男性(18-34歳) 未婚女性(18-34歳)

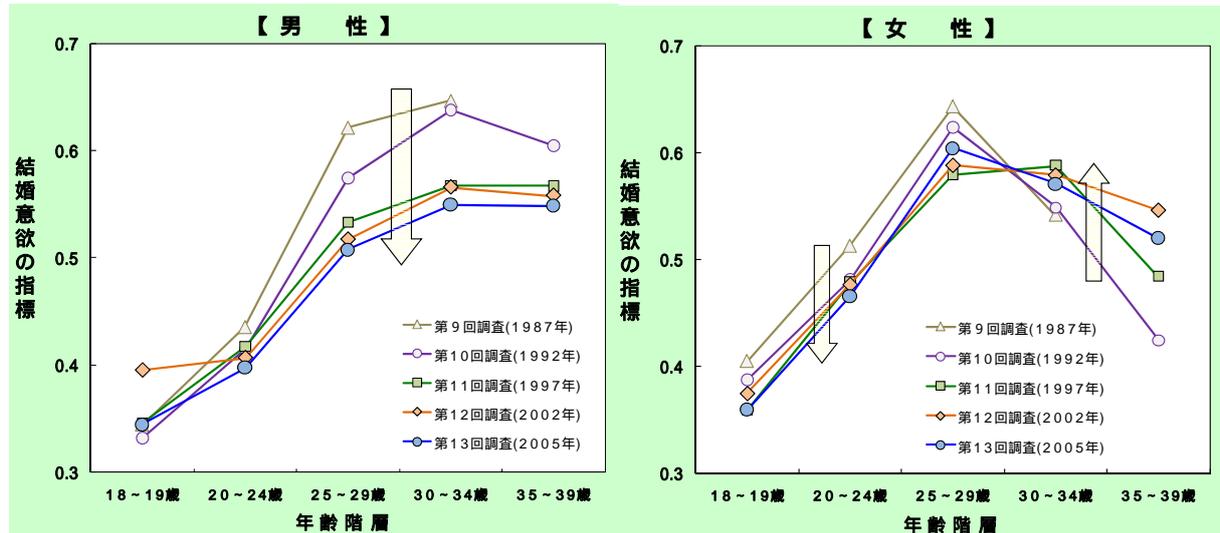


各グループの未婚者中で「一年以内に結婚したい」または「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した者の割合。

結婚意欲の低下

結婚意欲に関する複数の設問の回答を組み合わせ、回答者の結婚意欲を表す指標作成し、年齢層ごとの変化を観察した。男性では90年代に従来の結婚最盛年齢層で大きく低下したが、2000年以降は小幅な低下となっている。女性20歳代では概ね低下傾向だったが、20歳代後半ではわずかに反転も見られる。女性30歳代では概ね結婚意欲が以前より高まる傾向が見られる。

参考図5 年齢階層別にみた未婚者の結婚意欲の変化



結婚意欲の指標：未婚者集団の結婚意欲の強さを0～1の値として表したものの。仮にすべての未婚者が「一生結婚するつもりはない」なら0、逆に「1年以内に結婚したい」なら1となる。